

事業領域説明会（社会基盤事業領域） 主な質疑応答

1. 利益貢献が高い国内橋梁の受注力強化について、どのような分野の伸びを想定しているか。
 - ・ 高速道路会社の大型工事や公共工事の新設案件を確保する。
 - ・ また、新設だけでなく、耐震補強工事などの保全工事も確保するべく受注に注力する。

2. 橋梁等の交通インフラに関する維持管理の分野では、近年どのような変化が生じているか。
 - ・ 2019年からの国土強靱化5か年計画では相当規模の予算が組まれており、その中でインフラ設備の補修、更新が進められている。
 - ・ 近年、自然災害が多発する中、未対策の老朽化したインフラ設備も多いことから、この分野はまだ需要があるとみられ、国も引き続き予算措置を含めた対策を継続していくものとみられる。
 - ・ 高速道路においても、2車線区間の4車線化へ向けた工事が継続される見通し。

3. 水管理ビジネスにおいて、どういった強みを持って取り組んでいくのか。
 - ・ 水門事業におけるダムや河川ゲートの製造・施工・据付に強みを持っている。
 - ・ 近年大型案件が縮小傾向にある中で、点検修繕での売上を伸ばしているところ。
 - ・ 水管理（ダム制御装置、遠隔監視、高度化）については、GBRAINなどの点検サポートシステムを活用しながら、ゲートのコントロール支援、利水/治水にも対応していく。
 - ・ 特定の流域の治水管理事業を展開しており、既に受注済みの案件もある。

4. ライフサイクルビジネス（サービス事業等）の拡大について。
 - ・ 水門事業については、納めた製品の点検・修繕も対応できるビジネスモデルのため、ある程度確度をもって見通すことができる。
 - ・ 橋梁の補修・更新工事は、工期が長くなるものもあるため、キャパシティを確保しながら受注を積み上げている。
 - ・ これら工事案件とは別に、お客さまの予防保全を支援する事業にも注力している。この分野での受注を増やすことができれば、当事業領域におけるライフサイクルビジネスの比率は高まると考えている。

以上